



●使用前にはラベルをよく読んでください。
●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。

日産化学工業株式会社

本社 東京都千代田区神田錦町3-7-1
札幌・仙台・東京・名古屋・(北陸)・大阪・福岡
<http://www.nissan-agro.net/>

この資料は2014年7月現在の登録内容に基づいて作成しております。

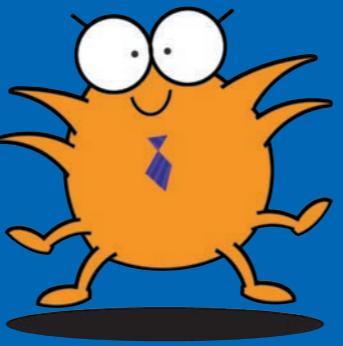
有用昆虫・ 天敵にやさしい

マイトコネ[®]
プロアブル

[®]は日産化学工業(株)の登録商標です。

マイトコネ® フロアブル

登録内容と注意事項



■適用害虫と使用方法

※本剤およびビフェナゼートを含む農薬の総使用回数の制限

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(l/10アール)	使用時期	総使用回数※	使用方法
かんきつ	ミカンサビダニ ミカンハダニ	1000~1500	200~700	収穫7日前まで	1回	散布
りんご				収穫前日まで		
なし	ハダニ類	1000~1500	1000	収穫7日前まで	2回以内	散布
もも				収穫3日前まで		
いちじく	ハダニ類	1000	1000~1500	収穫14日前まで	1回	散布
あけび(果実) マンゴー、アテモヤ				収穫21日前まで		
かき	ハダニ類	1000	100~300	収穫前日まで	1回	散布
ネクタリン、小粒核果類				収穫3日前まで		
おうとう	ハダニ類	1500	100~300	収穫14日前まで	2回以内	散布
ぶどう				収穫21日前まで		
いちご	ハダニ類	1000	100~300	収穫前日まで	1回	散布
すいか、メロン、きゅうり、 なす、ピーマン				収穫3日前まで		
トマト、 ミニトマト	ハダニ類	1500	200~400	摘採14日前まで 但し、遮光する栽培では 遮光開始14日前まで	1回	散布
さといも、やまのいも、かんしょ しそ科葉菜類(えごま(葉)を除く) しそ(花穂)				収穫前日まで		
茶	カンザワハダニ チャノナガサビダニ	1000	1000	開花前まで	2回以内	散布*1
食用ミニバラ	ハダニ類	1500	100~300	発生初期		
さく	ナミハダニ	1000	1000	収穫前日まで	1回	散布
りんどう	ハダニ類	1500	100~300	みょうが(花穂)の 収穫前日まで*2		
げっつき				収穫14日前まで		
しょくようほおずき	ハダニ類	1000	1500	※なしに使用する場合は、6月以前には使用しないでください。また、高温・乾燥時には使用しないでください(薬害)	1回	散布
みょうが(花穂)				※なしに使用する場合、以下の事項に注意してください。		
みょうが(茎葉)	ハダニ類	1500	1500	新葉に薬害を生ずる恐れがあるので6月以前には使用しないでください。		
さんしょう(葉)				極端な高温・乾燥時は葉に薬害を生ずる恐れがあるので使用しないでください。		

*1 但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する

*2 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで

※なしに使用する場合は、6月以前には使用しないでください。また、高温・乾燥時には使用しないでください(薬害)

▲効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 使用前には必ず容器をよく振ってください。
- ボルドー液との混用および14日以内の近接散布は避けてください。
- 植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の裏表に十分に散布してください。
- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布もららないようにていねいに散布してください。
- 本剤の連続散布はハダニ類の本剤に対する抵抗性を発達させる恐れがあるので、年1回散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用してください。
- もものモモサビダニに対して使用する場合、多発では効果が劣ることがあるので注意してください。
- 敷布量は対象の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはからないようにしてください。
- 茶に使用する場合、遮光する栽培とは茶を被覆するすべての栽培方法を指すので注意してください。
- なしに使用する場合、以下の事項に注意してください。
 - ①新葉に薬害を生ずる恐れがあるので6月以前には使用しないでください。
 - ②極端な高温・乾燥時は葉に薬害を生ずる恐れがあるので使用しないでください。

● 食用ミニバラにはじめて使用する場合及び新品種にはじめて使用する場合、使用者の責任において事前に薬効、薬害を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

● 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、遠くに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

● 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

▲安全使用上の注意

- かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも使用当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう繩張りや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

▲魚毒性等

- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

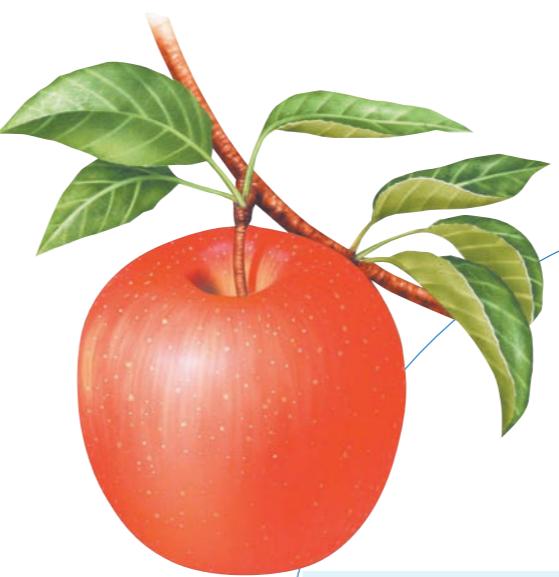
①各種のハダニ類に優れた効果

ナミハダニ・カンザワハダニ(テトラニクス属)やミカンハダニ・リンゴハダニ(パノニクス属)など各種のハダニ類に対して優れた効果を示します。

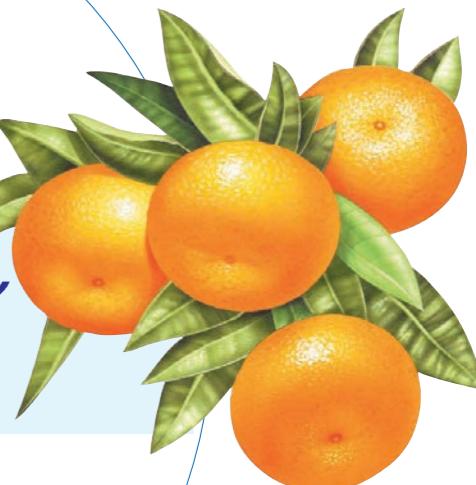


②有用昆虫、天敵には影響が少ない

マイトコネフロアブルは、蚕・ミツバチ・マメコバチなどの有用昆虫や、カズリダニ・ハネカクシなどの天敵に対して実用濃度で影響が少ないことが確認されています。



マイトコネ® フロアブル 特長



③適用作物が広く、汎用性の高い殺ダニ剤



マイトコネ[®] フロアブル

成分および性状

- 試験番号：NC-1111 フロアブル
- 一般名：ビフェナゼート(bifenazate)

化学名：イソプロピル=2-(4-メトキシビフェニル-3-イル)ヒドラジノホルマート

構造式：



製剤：20%フロアブル

性状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体

マイトコネ[®] フロアブル

安全性

1) 人畜への安全性

人畜毒性・普通物* (製剤) *劇毒物に該当しないものを指している通称

急性経口毒性 ラット 雌雄 LD₅₀>5,000mg/kg

マウス 雌雄 LD₅₀>6,750mg/kg

急性経皮毒性 ラット 雌雄 LD₅₀>2,000mg/kg

眼刺激性 ウサギ 刺激性なし

皮膚刺激性 ウサギ 刺激性なし

皮膚感作性 モルモット 感作性なし

2) 環境への安全性

魚毒性

コイ TL_m(48時間) 4.4ppm

ミジンコ TL_m(3時間) >1,000ppm

鳥類:高い安全性が認められています

急性経口毒性(原体) コリンウズラ LC₅₀ 2,298ppm

マガモ LC₅₀ 726ppm

有用昆虫(製剤):高い安全性が認められています

蚕…1,000倍希釈液を桑葉に散布。その後経時に蚕を処理した桑葉で飼育したところ、すべての試験区で中毒症状は認められませんでした(安全日数2日)。

ミツバチ…1,000倍希釈液をいちごの圃場へ散布後、翌日ミツバチを導入しても影響*が認められませんでした。また、虫体への直接散布(125~1,000倍希釈液)でも影響が認められませんでした(散布翌日導入可)。

*訪花虫数・巣箱への出入り数・巣箱内外の死虫数・女王バチおよび働きバチの行動・幼虫の発育および翅型異常個体の発生

マルハナバチ…1,000倍希釈液はトマトの圃場へ散布後、翌日マルハナバチを導入しても影響*が認められませんでした(翌日導入可能)。

*訪花個体数、巣内の働きバチの個体数

マメコバチ…1,000倍希釈液の虫体への直接散布で影響は認められませんでした。

また、りんご葉を1,000倍希釈液に浸漬処理して風乾後、マメコバチを放飼しても影響はありませんでした。

天敵(製剤):右の天敵について、直接散布や間接散布した場合の影響が少ないことが確認されています。



散布翌日から導入可能



●マルハナバチ



●ミツバチ



●マメコバチ

有用昆虫



●ハダニアザミウマ



●ハネカクシ類



●キアシクロヒメントウ



●ケナガカブリダニ



マイトコネフロアブルの天敵への影響

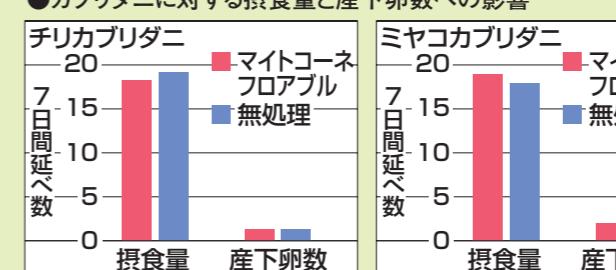
カブリダニに対する活性

日産化学工業(株)生物科学研究所

濃度 (ppm)	補正死虫率(%)					
	チリカブリダニ			ミヤコカブリダニ		
	卵	幼虫	雌成虫	卵	幼虫	雌成虫
1,000	0	4	0	5	0	0
200	0	0	0	0	0	0
LC ₅₀	>1,000	>1,000	>1,000	>1,000	>1,000	>1,000

カブリダニに対する摂食量と産下卵数への影響

日産化学工業(株)生物科学研究所



注)マイトコネフロアブル200ppmを処理したカブリダニに無処理のナミハダニの卵を与え、無処理のカブリダニと比較した。

摂食量はナミハダニ卵の減少数で評価した。

4

1)ハダニに対する基礎活性

マイトコーネフロアブルはハダニ類の各ステージに対して安定した効果を示しますが、特に幼虫・成虫に対し高い活性を有します。

●ハダニの各ステージに対する活性 LC₅₀(ppm)

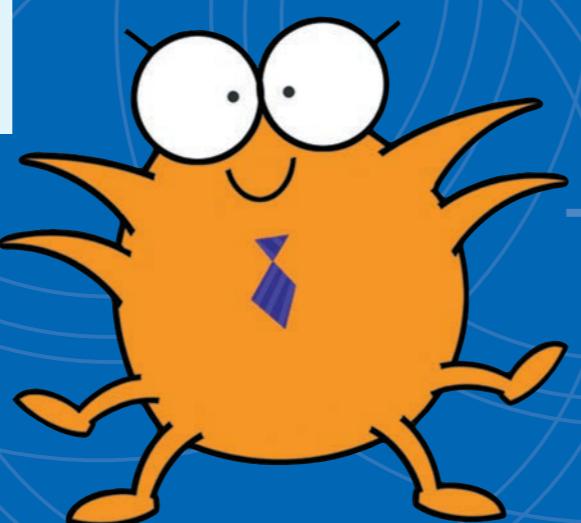
	ナミハダニ	カンザワハダニ	ミカンハダニ
卵	45.9(4.4)	27.0(3.7)	>200(8.7)
幼虫	0.24	0.30	1.5
雌成虫	0.75	0.62	2.3

試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所
試験方法：リーフ・ディスクスプレー法
卵については、産卵1日後に散布し、散布約10日後に未孵化卵数及び生虫数を調査・算出した。数値は未孵化効果(カッコ内は未孵化効果+殺孵化幼虫効果)で示した。
マイトコーネフロアブルの実用散布濃度は200~133ppm。



●ミカンハダニ

マイトコーネ[®]フロアブル ハダニに対する効果

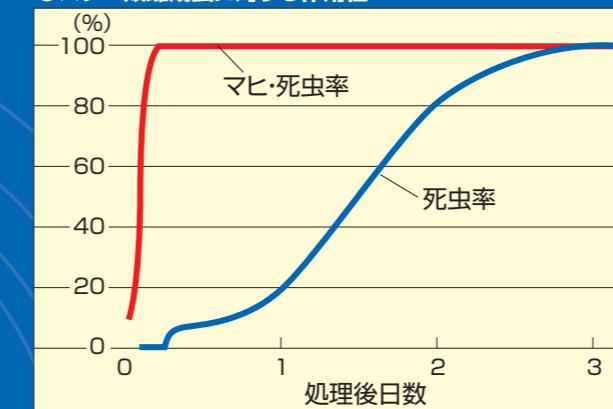


●ナミハダニ

2)ハダニに対する作用性

マイトコーネフロアブルは、ハダニ類に対し高い効果を示します。散布直後に死亡させる殺ダニ剤とは異なる場合があり、マヒ(苦悶)状態にさせた後死亡させます。そのため、完全に死亡するまで薬剤に接触後3~4日かかります。本剤散布後、葉上にハダニが見られる場合がありますが、それはマヒ状態のダニであり、産卵はできません。また、葉や果実を吸汁しませんので作物への加害はありません。

●ハダニ類雌成虫に対する作用性



試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所
試験方法：リーフ・ディスクスプレー法
マイトコーネフロアブル1,000倍液を散布して、経過時間ごとにマヒ・死虫数について調査した。

マイトコーネフロアブルを散布したミカンハダニの経時変化



① 散布前
(健全虫)
脚が伸びている



② 散布1~2日後
(マヒ虫)
脚がもつれる

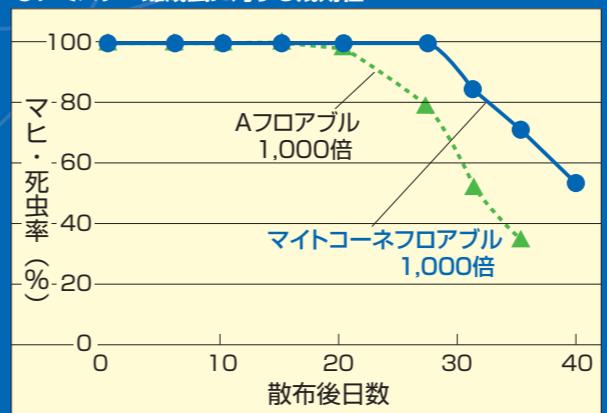


③ 散布3~4日後
(死虫)
全体に縮む

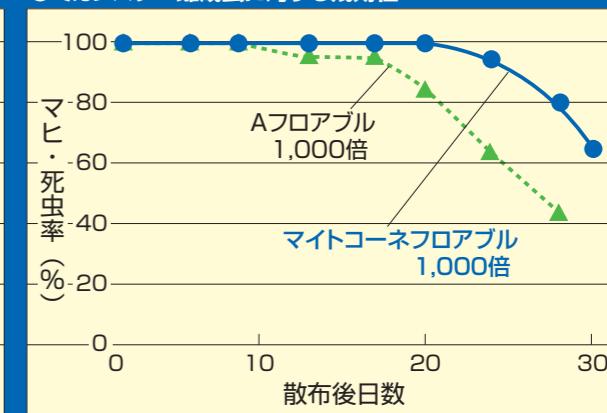
3)ハダニに対する残効性

マイトコーネフロアブルは、十分で適切な残効性を有しています。

●ナミハダニ雌成虫に対する残効性



●ミカンハダニ雌成虫に対する残効性



試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所

試験方法：ポット植えミカン(ミカンハダニ)またはポット植えナス(ナミハダニ)に各薬液を十分量散布した。散布後所定日数ごとにリーフ・ディスクを作成し雌成虫を放虫し、その2日後にマヒ・死虫数を調査した。

4) 活性に対する温度の影響

マイトコーネフロアブルの活性は、温度に影響されません。

●温度に対する活性の変化 LC₅₀ (ppm)

供試ハダニ		15°C	20°C	25°C	30°C
ナミハダニ	雌成虫	1.02	0.69	0.70	0.96
	幼虫	0.41	0.38	0.38	0.65
ミカンハダニ	雌成虫	4.25	5.75	4.82	2.77

試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所

試験方法：リーフ・ディスクスプレー法

処理後、リーフ・ディスクを各温度に設定されたインキュベーターに入れ、成虫は処理2日後、幼虫は処理6日後にマヒ・死虫数を調査した。



●カンザワハダニ

マイトコーネ[®] フロアブル ハダニに対する効果

5) ハダニに対する作用性

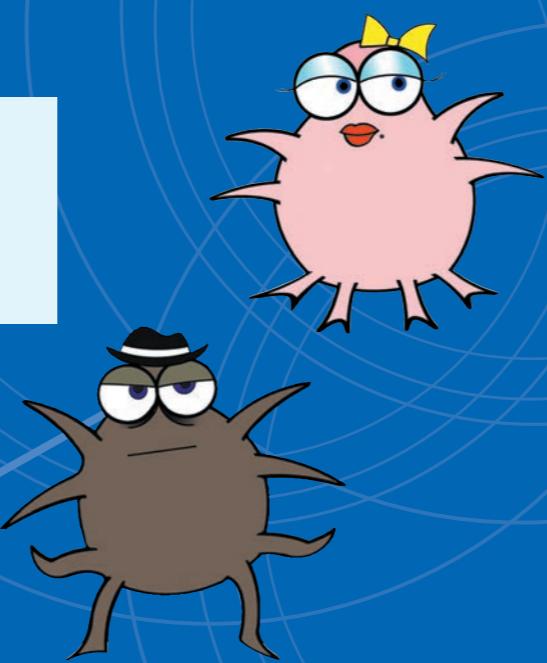
マイトコーネフロアブルは接触(ハダニが直接触れる)および吸汁(ハダニが吸汁する)の両方で高い活性を示します。ただし、ガス効果は期待できません。

●接触作用

濃度(ppm)	40	20	10	5	2.5
死虫率(%)	100	100	95	90	5

試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所

試験方法：水道水1mlを挟むように、2枚の薄いフィルムをガラスの円筒にかぶせた。その中にナミハダニ雌成虫を放した後、薬液を散布し、2日後にマヒ・死虫数を調査した。



●リンゴハダニ

●吸汁作用

濃度(ppm)	3	1	0.3	0.1	0.03
死虫率(%)	100	100	100	30	5

試験場所：日産化学工業(株)生物科学研究所

試験方法：薬液1mlを挟むように、2枚の薄いフィルムをガラスの円筒にかぶせた。その中にナミハダニ雌成虫を放し、2日後にマヒ・死虫数を調査した。